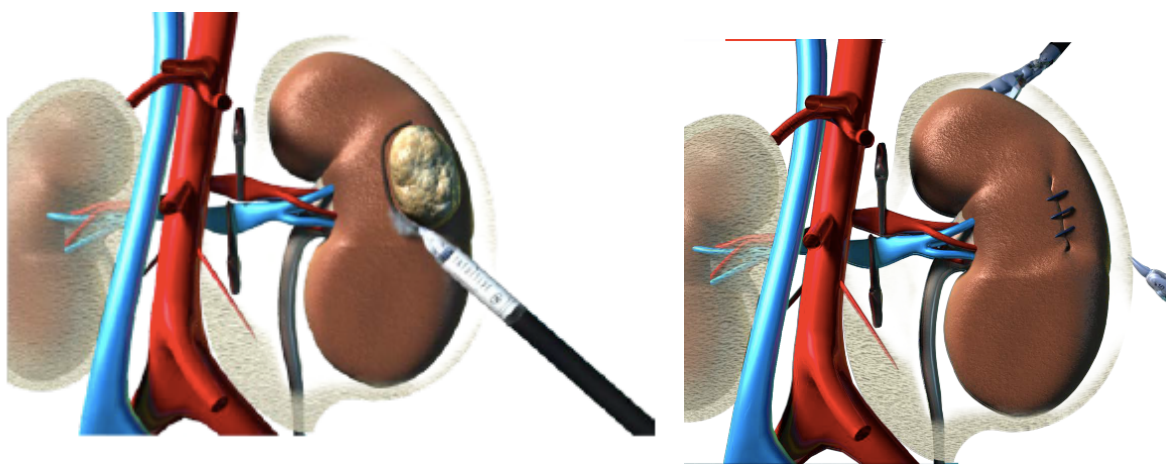


北里大学病院ではロボット支援下腎部分切除術 が保険適応となりました

【腎癌に対する腎部分切除術】

腎にできた腫瘍を部分的に切除し正常部分を温存する術式です。
4cm以下の腎癌に対する腎部分切除術は、腎臓機能保持において有用とされており再発、転移の可能性も腎臓を摘出する従来の根治的腎摘除術と同等であることから早期腎悪性腫瘍に対して積極的におこなわれています。

当院ではこれまで、腎部分切除術の低侵襲化をめざし腹腔鏡下腎部分切除術を積極的に施行してまいりましたが、このたび、さらに低侵襲かつ腎臓機能温存効果の高いロボット支援下腎部分切除術が保険の範囲内で実施できるようになりました。



腎部分切除では腎臓の血流を一時的に遮断し、出来るだけ短時間で腫瘍部分を切除し、摘出部の腎臓欠損部を縫い合わせる必要があります。腎臓の血流を長時間遮断すれば腎臓の機能は低下してしまうため、迅速かつ確実な切除と縫合操作が要求されます。

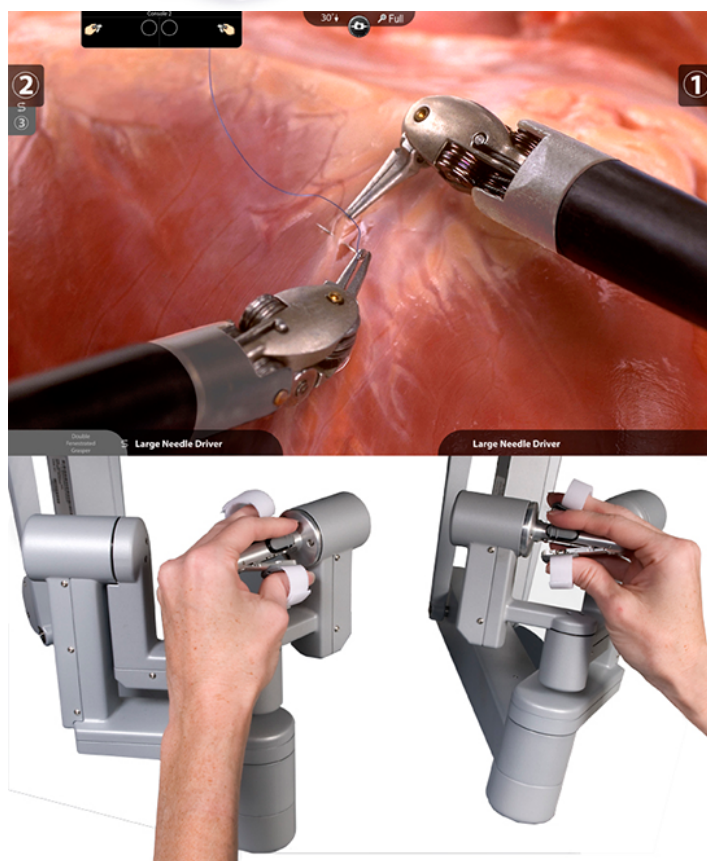
腹腔鏡手術は開腹の腎部分切除と比較すると大きな切開を必要としないため術後の痛みが少ないのが最大の利点ですが、術者にとって非常に高い技術が必要になります。

一方、ロボット支援腹腔鏡下手術は高解像度の 3D 画像を見ながら関節を有するロボット鉗子を用いて実施するため、切開や縫合を素早く確実に行うことが可能となっています。

開腹での腎部分切除に比べると退院や社会復帰も早期に出来ることが可能で、癌を治す成績も今までの治療法と同等と言われています。



© Intuitive Surgical, Inc.



© Intuitive Surgical, Inc